

みんなで子育て No.5

バックナンバーは
こちらから▶



環境エネルギー生活部 県民生活課
家庭教育推進専門職 : 辻
Tel 058-272-8206



夏と言えば「祭り」でしょうか。日本のお祭りの目的は「神様に感謝する」ことです。「祭り」という言葉の語源は「祀る（まつる）」からきており、その土地の神様に由来することが多いです。

日本人は「ハレとケ」という考え方を大切にしてきました。「ハレ」は非日常を、「ケ」は日常を表しますが、「ハレの日」「ハレ舞台」「ハレ着」という言葉は現在でも使われます。一方、日常の「ケ」が順調にいかなくなり、気が枯れてしまうことを「ケガレ」といいます。これを清め、祓うことでハレの日を迎え、日常のケを立て直すという考え方があります。

お祭りは、まぎれもなく非日常の「ハレ」であり、これを楽しみにし、「ケ」の日常を生きる活力としてきました。日常のケがあるからこそ、ハレの特別さが際立ち、楽しみにすることが出来ます。お祭りは日常と非日常のバランスをとり、暮らしを豊かにする日本人の知恵だと言えます。

少し堅い話になりましたが、「祭り」は単純に楽しいものです！子どもたちにとっては、まさに「特別な日」ですので、是非、ご家族で「楽しい思い出」を作る場としてください。思い出は「自分らしさ」「人との関係」「価値観」を形成するための重要な要素になります。また、楽しい思い出は感情とも密接に結びついており、「幸福感」「満足感」「ストレスの軽減」「情緒の安定」にも大きく寄与するはずです。

コロナ禍以降、「祭り」については見直しが図られ、取り止めになったという話もよく耳にするようになりましたが、ある研修会に参加した時に、「復活させたら、他の地域からも参加があり、以前より人が集まった。」というお話を伺いました。子どもたちの健全な育成のためにも、日本人が大切にしてきた「祭り」という文化の継承に努めたいものですね！

山県市立桜尾小学校「ほめるから考えるこどもの心や行動と親子の関わり」 6月16日（火）

講師：山県市こどもサポートセンター所長 大村 統子 氏

桜尾小学校では、授業参観後に家庭教育学級を開催されました。児童の待機場所として図書館を解放し、保護者が安心して学べるように配慮したこともあり、大変多くの保護者が参加されました。

講師の大村氏が準備されたワークシートに答えた後、「愛着」や「行動分析（心理学）」についての説明があり、どのように「ほめる」のがよいのか等について、具体例を挙げて教えていただきました。

行動分析は【きっかけ → 行動 → 結果】の3つの要素で整理する考え方で、「人間はほめられると、その望ましい行動が増える」ので、ダメ出しをするよりもほめた方が有益であること。ほめるときには「近づいて、目線を合わせ、笑顔で、温かみのある声で、分かりやすい言葉で行う」と、より伝わり易いことを学びました。

また、ほめるタイミングについては、「すかさず」「100%を待たず、25%できたらほめる（25%ルール）」ことが、コツだそうです！

叱るについては、「やらないこと」に対して叱ることが多くなりがちだが、十分ではないときでも、たまたまでも「あった」とときには、ほめた方が子どもの行動を変えることができるかもしれないと話があり、親が考え方や意味付けを変えて「怒り」を抑え、子どもに向ける言動を変えることが大切であるとまとめられました。



はじめに、ちょっと、思い出してみてください、考えてみてください。
①どんな時に、どうやって、お子さんをほめていますか？

②どんな時に叱ることが多いですか？

③親子なので、お互いの気持ちには、「察」がなくても分かっていると思いますか？

そう思う どちらかと言えばそう思う どちらかと言えばそう思わない そう思わない

④親子（血のつながり）は絶対、友人関係や仕事の人間関係とは違うと思いますか？

そう思う どちらかと言えばそう思う どちらかと言えばそう思わない そう思わない



保護者の声

- ・二人子どもがいるのですが、一緒にいると気になることにいつも口を出してしまいます。良いところに目を向けて、ほめていきたいと思いました。
- ・できていないことを指摘して叱るばかりで、ほとんどほめられていないなああと反省です。本人に、気づかせることができるように努めていきたいと思いました。
- ・こちらが何か言う子どもも怒ってしまうので、良いところ、悪いところの伝え方を考え直さなければなあと思いました。
- ・うるさく言われた時に、がんばろうとは思えないことは分かるので、思春期になった時の親子関係が悪くならないようするためにも、関わり方を変えていかなければならないと思いました。
- ・講師の先生の話から、自分（親）の都合で、感情的に怒っていたことに気づかされました。

講師： 学校歯科医 奥田 孝 氏 & 歯科衛生士



伊自良北小学校では、給食試食会、4～6年の児童と保護者向けの「お口の働き」講話、1年生の親子ブラッシング教室の3つを家庭教育学級として開催しました。講師の奥田歯科医師には、毎年、年数回来校していただき、指導をしていただいているそうです。奥田氏は「お口の働き」講話の中で、「お口ポカン（口唇閉鎖不全）」の子どもが増えてきている。幼児・児童の3割以上が該当するのではないかと話しされました。口笛が吹けない。風

船ガムを膨らますことができない。ロウソクの火を吹き消すことができない。これらの子は、口唇閉鎖不全の可能性があるのであります。

「お口ポカン」の子どもは、口呼吸をしている場合が多く、歯並びが崩れたり、アデノイド顔貌という顔の変形症状が現れ易くなる。口呼吸で寝ていると舌が落ち込み、気道を塞ぐ形になるためいびきをかきやすく、睡眠時無呼吸症候群につながる。また、姿勢の崩れにもつながり、猫背になる。など、口が開いていることのデメリットについて教えていただきました。

口呼吸を鼻呼吸に改善する（口が開かないようにする）ための対策としては、「あいうべ体操」が有効で、声を出さなくてよいので、この口の体操を食後に10回（1日に30回）を毎日続け、口の周りの筋肉と舌を鍛えるようにと指導がありました。ポッピングや風船ガムを膨らませること、硬いものをよく噛んで食べることも有効だそうです。

保護者の声

- ・毎年、奥田先生から学ぶ機会があり、知りたいことが聞けてありがたいです。磨き残しがたくさんあるので、仕上げ磨きをしないといけないと思いました。コミュニケーションづくりや、スキンシップにもなると思うので、がんばります！
- ・虫歯になると大変！ 6歳臼歯も生え始めましたし、思ったより歯が汚れていたの、仕上げ磨きをしっかり行いたいと思います。
- ・「虫歯は嫌い！」と、毎日がんばって磨いています。歯の定期点検には行っていますし、何かあれば、直ぐに連れていくようにしています。
- ・毎年奥田先生の話聞き、先生に教えていただいたことを子どもに繰り返し伝えるようにしています。本人はなかなか続けられないところがありますが、本人のがんばりを期待したいです。



合飲の木幼稚園 「デカフェ珈琲提供と交流会」 6月22日（月）

講師： PAUZA Decaf Coffee Stand バリスタ 山之内 春奈 氏



合飲の木幼稚園では、年3回家庭教育学級を行っており、1回目は保護者の企画、2回目は在宅型、3回目は給食試食会と就学前相談会だそうです。この日は、心のリフレッシュが図れるようにと、カフェインの90%以上を取り除いたデカフェ珈琲について学び、試飲できる機会と他のママと気軽にお話しできる交流会をセットにした会を企画されました。

講師の山之内氏からは、デカフェのメリット、カフェイン取り除きのプロセス、美味しい珈琲の入れ方などを教えていただきました。また、デカフェ珈琲豆の焙煎前の香りや、普通の珈琲との飲み比べ等を体験しました。珈琲のよい香りでもリフレッシュされたこともあってか、交流会も和やかに進められていました。



＜珈琲の淹れ方＞ 90℃の湯を使用。フィルターと用具を少量の湯で温める。15gの珈琲粉を40gの湯で30秒間蒸らす。210gの湯を少しずつ円を描きながら加える（2分）。溜まった珈琲を軽く攪拌する。

参加者の声

- ・家で、フィルターにお湯をかけてみたら本当に紙の味のお湯になっていて、今まで気が付かなかったことまで教えていただき、珈琲好きの私にとっては貴重な情報でした！
- ・夫が珈琲にはまっていて、こだわって淹れています。豆を挽いてドリップして淹れるのって、やはりいいなと思いました。デカフェ珈琲と普通の珈琲の違いが分かってよかったです。
- ・楽しかったです。珈琲の香りは好きなのですが、合わない体質みたいで胃が重くなるため普段は飲んでいません。今日はカフェインがないためか飲んで大丈夫みたいです。
- ・初めての子どもが年中なのですが、今日は先輩のママさんから、幼稚園の分からなかったことについて聞くことができてよかったです。

講師 : ぎふ木育指導員 横井 敦史 氏



神海幼稚園では、森林活用推進課の事業である「ぎふ木育教室」を活用し、家庭教育学級を開催しました。この日は、木育プログラムの中から「木の楽器づくり(祭りの鈴)」に取り組みました。

岐阜県産の木製キットを使用し、手触りがよくなるようにサンドペーパーで角を丸く削った後、金づちと真鍮釘でパーツを固定しました。その後、自分の好きな色の鈴を2つゴムひもに通して組み立て、スレイベルを完成させました。

全員の制作が終わると、園児たちはそろって「かえるのうた」と「きらきら星」を演奏しました。親子でも一緒に演奏を楽しむ姿が見られ、会場は温かな雰囲気になりました。

講師の横井氏(アトリエきのこ)は、木製のおもちゃを制作されている方で、この日は長胴太鼓や締太鼓、こきりこささら、木魚といった木製楽器の触れ合い体験も用意してくださいました。園児たちはさまざまな楽器の音を楽しみ、保護者もさらに挑戦するなど、童心に返って楽しむ様子が見られました。

保護者の声

- ・子どもが夢中になって削っていました。ものづくりは好きですが、子どもと一緒にすることはなくて、今日はよい経験になりました。
- ・ものづくりはやっていると楽しいです。思ったより木が柔らかくて削り易かったです。
- ・緑色が好きで、自分で鈴の色を選ぶことができてよかったです。夏らしい作品に仕上がっていました。金づちが上手に使えていたので、家でもやらせてみようかと思えます。
- ・木のイベントにはよく参加します。お友達の家が木を扱って見えるので、本棚やすのこなど作って使っています。



ぎふ木育教室
の案内ちらし

「ぎふ木育教室」の応募は毎年2月に行われ、応募多数の場合は初応募が優先されます。講師料無料。材料費にも一部補助があります。

本巣市立真正中学校 「高校見学会」 7月1日(水)

協力校 : 本巣松陽高等学校・済美高等学校・長良高等学校・岐山高等学校・岐阜工業高等専門学校

真正中学校では、PTA役員、保護者ボランティアと学校の進路担当者で協議し訪問先を決め、バスを手配して高校見学会を実施しました。1日5校見学とタイトな日程のため、昼食は各自が持参し、移動の間にバス内で摂る方式をとりました。

参加者53名は、先着順で決定。案内から3日で定員を超えたそうです。2・3年生の保護者が主体でしたが、1年生の保護者の希望もあり、昨年に引き続いて参加されている方もありました。

各校の訪問時間は1時間。学校側から高校生活の様子や進路先などについての説明を受け、授業や施設の様子を見学しました。

済美高等学校では、真正中学校出身の3年生と1年生の生徒がそれぞれ、進学先として選んだ理由等について説明してくれました。目的意識を明確にして進学したからこそ、高校の環境を十分に生かし、夢に向かって確実に歩みを進めている姿が見られました。

岐阜工業高等専門学校では、ものづくりの専門家を育てるために、専門性が高い実験や実習の学習割合が大きいと、それを支える充実した施設、設備を実際に見て知ることができました。「先輩の声」として、真正中学校出身の学生のインタビューコメントが掲載されている資料を準備していただきました。



参加者の声

- ・私学の無償化が気になっています。済美高校では国公立大学に多数合格しており、学力向上にどのように取り組まれているかが知りたいと思い参加しました。
- ・今回は、普通科の高校が多かったのですが、それぞれの学校に特色があり、違いを知ることができてよかったです。
- ・親子で参加する学校見学会もありますが、今回は実際の授業内容や生徒さんの表情を直接見ることができまし、5校を比較することができてよかったです。
- ・どの学校も卒業後の(大学)進学を見据えたお話が多く、少し気疲れしました。役員さんが研修プリントを準備してくださったこともあり、皆さんが熱心にメモしてみえたのが印象的でした。

※リーダー研修会の事後アンケートに、「高校見学会」の取材要望がありましたので、今回真正中学校に依頼し掲載しました。

子どもの「読解力」を養うために、どんな工夫をされていますか？

文章の読解力は、一朝一夕に身に付くものではありませんが、日々の関わりや積み重ねによって育むことができます。ここでは、1) 子ども自身ができること 2) 親が家庭でできること（絵本の読み聞かせ・読書習慣・読書方法）を、具体例も挙げながら記してみます。

1. 読解力とは

- ・書いてある内容を正しく理解する力
 - ・行間や登場人物の気持ちを想像する力
 - ・因果関係（なぜそうなったか）をつかむ力
 - ・自分の言葉で要約・説明する力
- であり、単に「文字が読める」こととは別物になります。

2. 子ども自身ができる読解力アップの方法

【音読をする】

効果：文の構造やリズムが身につく。読み飛ばしや勘違いに気づきやすいです。

例：「今日は1ページだけ音読しよう」とはたらきかける ⇒

読んだ後に「どんな話だった？」と一言尋ねてみる。

【わからない言葉をそのままにしない】

効果：語彙力が増えると、理解量が一気に増えます。

例：ノートや付箋に「わからない言葉メモ」を作る。

調べた言葉で短い文を作る 例：「勇敢」⇒「勇敢なライオンは森を守った」

【要約してみる】

効果：「大事なことを選ぶ力」が育ちます。

例：低学年には「一番おもしろかったところは？」と問いかける。

高学年には「この話を3文で説明してみよう！」と投げかける。

3. 親ができること①【絵本の読み聞かせ】

語彙、文の型、想像力が育ち、「読むこと＝楽しい」という感情が定着します。

＜読み聞かせのコツ（年齢共通）＞

- ・途中で問いかける 例：「この子、今どんな気持ちだと思う？」「このあとどうなると思う？」 ⇒ 正解・不正解は不要。「考えさせること」が目的です。
- ・絵をじっくり見る時間を取る 例：「この絵から何がわかる？」「さっきのページと何が変わった？」 ⇒ 視覚情報と言語情報を結びつける。
- ・読み終わったあとに一言会話 例：「ママはここが好きだったな」「〇〇はどう思った？」 ⇒ 感想を言葉にする経験を積ませる。

4. 親ができること②【読書の習慣づくり】

- ・「量」より「継続」 1日10分でOK。毎日同じ時間帯がおすすめ（寝る前など）。
 - ・本を身近に置く 例：リビングに本棚を置く。親も一緒に読書する。
 - ・レベルに合った本を選ぶ 例：8～9割の漢字、語彙が理解できるもの。
- ※ 難しすぎる本では読解力を伸ばせないなので、少しだけ難しいものを選びます。

5. 親ができること③【読書方法の工夫】

- ・「読ませる」のではなく「話す」 NG例：「ちゃんと読んだの？」「感想文書きなさい」 OK例：「どんな話だった？」「もし自分だったらどうする？」
 - ・登場人物になって考える 例：「この子はなぜ嘘をついたと思う？」「他に選択肢はあったかな？」 ⇒ 中学以降の記述問題の基礎力につながります。
 - ・日常会話でも読解力を育てる 例：ニュースや出来事について「どうしてそうなったと思う？」 失敗したとき「原因は何だったのかな？」
- ⇒ 読解力＝「考えを言葉で整理する力」

6. 年齢別ポイント

幼児～低学年：絵本の読み聞かせ 会話をたくさん 正解を求めない

中学年：音読＋要約、感想を言葉にする 少し長い物語に挑戦する

高学年以降：登場人物の心情・理由を説明 自分の意見と根拠をセットで話す

7. 最後に

読解力を伸ばすうえで大切なことは、「考えたことを言葉にしている」という安心できる環境を整えることです。間違っても大丈夫。うまく言えなくても大丈夫。そんな積み重ねが、「国語力」「学習 理解」「将来の思考力」につながります。